

重点研究の総合評価結果(事後・中間)

○事後評価【重点研究】（終了課題）

課題名	担当機関	研究期間	研究評価委員会の評価結果				総合評価*	
			妥当性	目標の達成度	活用の可能性	全体評価	評価	意見
冬季の道産葉菜類供給強化に向けた無加温ハウス生産流通体系の確立	○道南農業試験場 上川農業試験場	H26-28	a	b	a	B	B	無加温ハウスによる冬期の葉菜類栽培技術をより広い生産現場で活用し、経済性や流通体系を明らかにすること
たまねぎ新品種「ゆめせんか」の加工特性解明と高品質安定生産技術確立による需要促進	○北見農業試験場 十勝農業試験場	H26-28	b	b	b	B	B	ゆめせんかの栽培適性や長期貯蔵による品質特性について調査し、普及拡大に努めること
道産コンブの生産安定化に関する研究	○釧路水産試験場 中央水産試験場 工業試験場 北方建築総合研究所	H25-28	b	b	b	B	B	開発した乾燥システムの初期費用を含めた経済性やコンブの品質への効果を明確にし、生産現場での活用を進めること
サケ稚仔魚の原虫病総合的予防技術の開発	○さけます内水面水産試験場	H26-28	a	b	b	B	B	サケ稚仔魚における原虫病の総合的な予防体系として、道内のふ化放流事業現場へ広く普及すること
林業用優良種子の安定確保に向けた採種園整備指針の策定	○林業試験場	H26-28	b	b	b	B	B	採種園の造成に関わる基礎指針として、行政機関と連携しながら成果の普及を進めること
早生樹「ヤナギ」を活用した高品質シイタケの安定生産システムの開発	○林産試験場	H26-28	a	b	a	B	B	ヤナギおが粉の安定供給体制を確保し、シイタケ栽培の高品質化、収量向上、経営安定等が進展するように技術の普及を図ること
成熟化するトドマツ人工林材の用途適性評価と利用技術開発	○林産試験場 林業試験場	H26-28	b	b	b	B	B	トドマツ人工林材の用途適性を生かして製材工場における利用拡大を進め、トドマツ人工林材の有効利用に寄与すること
北海道産小豆粉の製造とそれを活用した食品製造技術の実用化に関する研究	○食品加工研究センター 工業試験場	H26-28	b	b	b	B	B	製造コストの低下を図るとともに、新規需要にどの程度寄与できるかを明確にして、利用拡大を進めること
発酵食肉製品の新たな製造技術の開発	○食品加工研究センター	H27-28	b	b	b	B	B	既存製品から比べた優位性、マーケットの需要や嗜好との関連を明らかにして、製品化を進めること
森林管理と連携したエゾシカの個体数管理手法に関する研究	○環境科学研究センター 林業試験場	H24-28	b	b	b	B	B	開発した小型囲いワナの利用を進めるとともに、連携体制のモデルを活用した効率的な個体数管理手法の普及を図ること
火山体内部構造・熱水流動系のモデル化と火山活動度評価手法の高度化（十勝岳）	○地質研究所	H26-28	a	b	b	B	B	ハザードマップや気象庁の噴火予知レベルの判断に具体的な改善が加わるよう成果の還元を進めること

○中間評価【重点研究】（継続課題）

課題名	担当機関	研究期間	研究評価委員会の評価結果				総合評価*	
			進捗状況	達成見込み	活用の可能性	全体評価	評価	意見
現地牛群データに基づく乳牛の周産期疾病低減を目指した乾乳期飼養管理法の体系化	○根釧農業試験場	H28-30	b	b	b	B	B	疾病リスクと乳量、牛の健康状態（飼料摂取量）との相互関係を定量的に評価する方法を検討し、最適な乾乳期間と飼養条件を明らかにすること
苗木需要量の増加に対応したコンテナ苗生産・植栽システムの開発	○林業試験場 林産試験場	H28-30	b	b	b	B	B	苗木の効率的生産、輸送、植栽までのシステム全体を最適化できるように開発を進めるとともに、システムが市場に受け入れられるよう普及性にも考慮すること。
防腐薬剤処理木材を使った道路構造物の予防保全に関する研究	○林産試験場 林業試験場	H28-30	b	c	b	C	C	耐用年数推定の方法に加え、補修も含めた予防保全に向かう研究のプロセスを整理するとともに、研究を加速させること
金属3D造形による実用金型製造のための加工・熱処理プロセス技術の開発	○工業試験場	H28-30	b	b	b	B	B	系統的に条件を変えるとともに、研究項目ごとの関連性を明確にして、造形効率、製品品質、費用対効果などが最適化できるよう検討を進めること。

注) 研究評価委員会の評価結果の項目

【中間評価】 進捗状況: 研究の進捗状況

達成見込み: 研究目標の達成見込み

活用の可能性: 成果の活用の可能性

【事後評価】 妥当性: 研究内容の妥当性

目標の達成度: 研究目標の達成度

活用の可能性: 成果の活用の可能性

* : 総合評価は、研究評価委員会の評価結果を道総研役員会にて審議し、理事長が決定